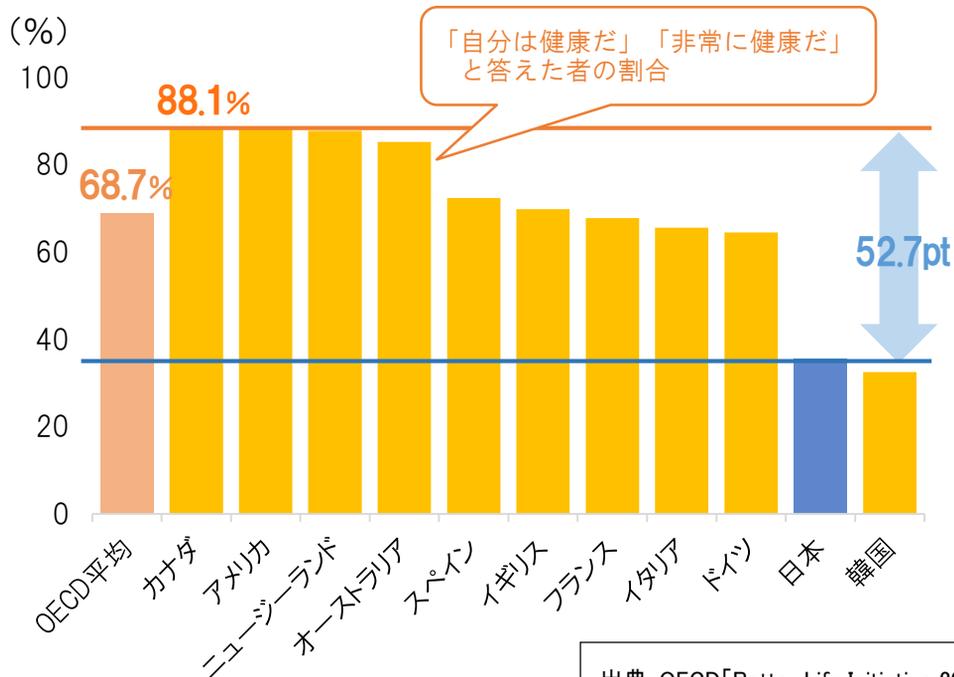


1 健康意識に関する国際比較

経済協力開発機構（OECD）の調査によると、日本の平均寿命はOECD諸国中最高の83.9年であるにもかかわらず、「自分の健康だ」または「非常に健康だ」とする者の割合は35.4%とOECD平均68.7%の約半分である。（35か国中34位）



2 健康意識と死亡率との関連

「健康寿命のあり方に関する有識者研究会」報告書（平成31年3月、厚生労働省）によれば、自分が健康であるとの自覚と、死亡率との間には相関関係にあるとされており、健康を捉えるうえでの重要な要素として考えられている。

3 健康意識を高める取組みの必要性

このことから、県民の健康をさらに増進させるためには、県民の健康意識を高めることが重要であると考えられる。

このため、健康寿命日本一を実現するためには、県民一人にひとりに、自身が健康であるという意識を高めてもらう取組みが必要である。